

スポーツウエルネス学位プログラム

基礎専門科目必修(スポーツウエルネス学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JL001	課題解決型データ分析論特講1	1	1.0	1	秋ABC	集中		岡田 幸彦	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになることを目標に、社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る OBTS011と同一。 実施日未定
02JL002	課題解決型データ分析論特講2	1	1.0	1	秋ABC	集中		岡田 幸彦	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータCoEの成果を取り上げることを中心に進める予定である。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る OBTS012と同一。 10/10, 11/14(予定)

専門科目必修(スポーツウエルネス学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JL101	スポーツウエルネス研究演習I	2	1.0	1	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 水上 勝義 久野 譜也 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンター教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。 中間報告会IIに終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る OBTS111と同一。
02JL102	スポーツウエルネス研究演習II	2	1.0	2	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 水上 勝義 久野 譜也 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。 中間報告会IIIに終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。 スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で1回以上の発表を行う(海外での調査研究に代えることができる)。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る OBTS112と同一。
02JL103	スポーツウエルネス研究演習III	2	1.0	3	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 水上 勝義 久野 譜也 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	博士論文合格できる取りまとめ力を身につけるスポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。 スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で口頭発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る OBTS113と同一。
02JL104	課題解決型プロジェクトワーク	7	3.0	1・2					スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。 この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)、フィールドワーク、事後報告(フィールドワーク報告書の作成、発表)の3段階で実施する。。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成28年度入学者用 2020年度開講せず。
02JL105	課題解決型プロジェクトワークI	7	1.0	-	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 水上 勝義 久野 譜也 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄 足立 和隆	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。 この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、計画発表)を行う。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成29年度以降入学者用 OBTS114と同一

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JL106	課題解決型プロジェクトワーク II	7	2.0	-	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 水上 勝義 久野 譜也 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄 足立 和隆	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。 この授業では、フィールドワーク、事後報告（フィールドワーク報告書の作成、発表）を行う。 事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成29年度以降入学者用 0BTS115と同一